

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600368		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	三重県津市戸木町4113-11		
自己評価作成日	令和元年8月	評価結果市町提出日	令和1年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470600368-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年9月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは開設して15年を過ぎました。開設時の思いを大切にして様々な課題に対して着実に取り組んでいきたいと考えています。研修会を行い認知症の理解を深め、利用者様の心に寄り添った介護が出来るよう職員の資質向上を図りたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設15年目を迎え、「和顔愛語」を理念に掲げ、利用者職員が笑顔で穏やかに寄り添うケアを目指している。理念以外にも「絆と生きるよろこび」を3ユニット共通で1年間のスローガンとして毎年全体で取り組んでいる。母体会社運営のグループホームとショートステイ、デイサービスの事業所が隣接しており、イベントや行事と一緒に連携を取りながら、交流と生活の場作りを支援している。自然に囲まれた広い敷地内には、緑豊かな公園、東屋、四季折々の花が咲き、綺麗な景色を見ながら利用者は、散歩コースを楽しめる日課となっている。食堂リビング、廊下や居室内やドアにも温かみのある木材が内装に使われて、落ち着いた雰囲気を感じられる。建物は鉄筋造りで頑丈であるが「現実をもっと捉える必要がある」と話し合い、夜間は利用者の靴をベッドのそばに置き、地震災害などガラスや割れ物飛び散りでの怪我や事故予防対策を、小さな事から工夫を常に話し合い、実行している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基本に置き利用者、家族様、地域の皆様の期待に沿えるよう取り組んでいます。介護の本質を忘れずに。	「和顔愛語」を事業所理念とし、3ユニット毎フロアに掲示されている。毎月フロア会議では全職員と理念を振り返る機会を持ち、優しく穏やかな言葉で、利用者寄り添うケアを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と行事などを通じて交流をしています。災害時にも協力体制を整えたい。	「夏祭り」の回を重ねてきた交流により、地域と利用者の暮らしや事業所への理解が深まり、慰問やボランティア来訪にも恵まれてきている。地元中学生職場福祉体験では、毎年利用者も楽しみの来訪交流である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームが地域の方に役に立つよう頑張っております。認知症の方への理解を求めて生きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームも含めた各種老人ホームの内容説明及び介護保険制度について意見交換をしています。	推進会議は年間6回の開催も定着している。事業所の運営状況や利用者の状況を報告し、参加メンバーの多方面からの情報や意見交換、提案や助言があり、地域の方々と有意義な場となっている。	認知症ケアの理解と利用者の暮らしの質を高めるために、家族と行政担当者へ出席案内の働きかけをして、会議へ出席していただくように工夫する事により、一層のサービス向上を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定更新、運営基準などについて相談に応じてもらっている。サービスの向上に努めている。	行政からは生保利用者への隔月訪問があり、相談や助言を受けている。管理者は毎月1回本庁窓口に出向き情報や助言を受けている。住所地が異なる入居相談にも行政より助言や協力を受け、サービス向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束にあたるのか、研修を行い取り組んでいます。	「高齢者虐待防止学習テキスト」を利用し、3ヶ月に1回全職員が学習会に参加し現場VTRを撮り、欠席者は拝聴学習で学んでいる。言葉の拘束にも重点を置き、身体拘束・虐待防止の徹底を図る研修を継続している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回は虐待防止の施設内研修を行い取り組んでいます。ストレスのない活気のある職場を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行い取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時、見学時に説明を行い契約をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接お話を聞いたり電話連絡時にお話を伺うなどし運営に反映しています。気軽に申し出ただけのように配慮している。	家族アンケートを実施し、回答以外にも貴重な意見が有り、結果を家族と全職員に公表した。満足度確認や意見・要望が把握出来て、今後の事業所運営の改善や取り組みに活かせるよう努めている。また、家族への日常連絡を往復葉書で行い、返信には感想や意見も届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議時に職員で意見を出し合い向上できるように努力しています。	管理者は全職員に年2回の個人面談を行い、意欲向上や運営に反映出来るよう努めている。職員全体会議でも、1人ずつ自由な発言が出来る雰囲気作りをして、本音の意見や要望が聴けるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気持ちよく働ける職場になるようにチームワークを重視し職場改善に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格が取れるように支援している。外部研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員との交流の機会を持つよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後に、本人からよく話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後に、家族様からよく話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを進めていく中で本人家族様の状況を確認しながら適切な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を過ごすわけですので良い関係が保てるよう努めています。一方的にならないよう気を付けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入りより良い関係になるよう取り組んでいる。月1回手紙を書いて近況を報告し密なるケアを実施する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は大切であるので、できる限り支援していきたい。	入居前の行きつけ理・美容室にも行く機会が減り、現在では毎月の訪問美容室のスタッフが顔馴染みとなっており、本人の希望で2ヶ月に1回の利用も楽しみにしている。墓参りはお盆や正月に、家族と一緒に外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が中に入り孤立しないよう関係性が出るように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてもできる限りの支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前はもとより入所後も思いを尊重した支援に取り組んでいる。	発言の少ない利用者も新聞チラシを見て「何が食べたい?」「何が欲しい?」と聞けば会話が広がり、旅行の本を見ると昔行った場所や名所の話題が出て、把握に繋がっている。家族の面会時には身の回りの些細な事も教えて貰いながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを確り取り以前の生活と変わらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日接している中で現状の確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のフロアー会議で計画作成担当を中心にモニタリングをしケアの統一に努めている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の援助目標を立て、変化も含め毎月モニタリングを実施している。家族の思いや意見も丁寧に記録し、利用者の視点に立って計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は支援をした結果どうなったかを確認するために必要である。その後の支援につなげることに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化を進めるために知識、技術の習得に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し必要時に活用できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疑問な点があれば相談するなど、かかりつけ医との連携強化を図っている。	利用者と家族の意向を尊重して、かかりつけ医と協力医共に24時間の適切な医療を支援している。協力医より1日置きに1日1名の訪問診療があり、かかりつけ医へは家族の協力で受診している。緊急時は医師からの指示により救急車要請の場合がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していませんが隣接施設の看護師と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は職員が対応し施設での状況を説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、家族様と相談をしながら進めています。	利用者・家族の看取りや重度化への意向は、入居時に説明・確認を行っているが、事業所としては終末期は病院への方針であり、現在看取りは行っていない。事業所が対応出来る最大のケアと医療の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者さんの急変事故時の対応については話をしております 事故発生時には状況を確認しながら対応にあたっている。AEDの設置、急変時のマニュアル作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のために非常食は準備しました 停電時の対応も発電機の購入について検討しています地域の方へご協力のお願ひもしています。	消防署立会いと事業所独自の訓練との年2回、防災訓練の実施をしている。昨年より備蓄品見直しを行い、3日分の非常食を屋外倉庫に保管し、管理体制を整備した。鉄筋構造の頑丈な造りでガラスは飛散防止フィルム施行済みである。発電機は費用面で保留となり再検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を大切にする、人権を無視するような言動はなくすよう取り組んでいます。	利用者との会話には、否定をしない事・職員側の頭を低くして上から目線にならない様に配慮する事を全職員に呼び掛けて、その人らしい姿を大切にしている。また自尊心を傷付け無い様に声掛けも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞いたら出来ることは実行に移すように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で生活のリズムを崩すことがあってはいけないので利用者さんを中心に行動する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人によって好みの服装があるので支援しています。また清潔にする事につながるので支援しています。時間がある時にマニキュアをしたり定期的に床屋が訪問してくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者により食材が届きメニューも決められているが、月1回オリジナルメニューで利用者の意見を反映している。	業者から献立・食材が届いて、調理と配膳は3食共職員が行っている。テーブル拭きは利用者が活躍しており、食事後に出来る利用者は、自らカウンターまで下膳を行っている。利用者と一緒に美味しい料理を楽しんで貰える様にと、講師を招いた職員対象の料理教室開催は、好評である。月一回は利用者の希望メニューを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や、好みの食べ物、苦手な食べ物があるときは工夫をしています 熱中症予防のため水分摂取にも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中を清潔にすることは肺炎予防になるので清潔にしてもらうよう取り組んでいます。入れ歯調整など訪問歯科医に依頼しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけや誘導をしできるだけトイレでもらうように取り組んでいる。どうしても必要な方はリハビリパンツなどを使用いただきます。	転倒骨折術後退院再入居された利用者が、立位困難の中、居室内トイレルーバー設置、ベッド柵の工夫と、全職員の生活リハビリ支援強化の継続により、立位が出来る様になり、トイレで排泄が可能となった。家族からは喜びと感謝の声が届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調を整えるうえで大切な事なので管理をしています。便秘予防にオリゴ糖を加えたおやつを食べてもらっています。かかりつけ医に相談し便秘薬をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好き、嫌いがあるので、個人の希望を聞きながら入浴をしてもらっています。	午後より週3回の入浴があり、感染予防対策の為、1人ずつお湯の入れ替えをしている。嫌がる方には息子さんからの入浴メッセージを伝えると、息子さんに応えて入浴をされている。浴室窓を開けると高い場所からの景色が美しく、夏は涼しく、風や緑を感じて貰って、嬉しい表情で入浴される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるよう寝具、照明、室温、調整に配慮しています。寝られないときはフロアーに出てきてもらい話し相手となり見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を飲んで見える方がいるので飲み間違いのないように副作用の有無を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が単調にならないようレクリエーションをしたり行事をしたり、洗濯物をたたんでもらったりと役割を持っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、外食などの外出を支援している。個人的には家族さんと外出をされてみえます。また外泊をされる方も見えます。	法人敷地内の公園には、梅・桜・藤・紫陽花など、四季を通じて利用者は花見を楽しめて、気分転換の出来る環境の中、日常の散歩を楽しんでいる。また家族の協力支援で、誕生日・お盆・正月休みには、外出や外泊をされる利用者もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額のお金を持っていただくと、しまい忘れたり、なくされたりするといけないので控えていただいておりますが、少額のお金は持っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	往復ハガキを出してもらっています・家族さんも絵を書いて送り返してもらったり、家の様子を書いて送り返してもらったりしています。電話連絡も自由にしてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるように清潔にしています。音や光、空調などこまめに調整しています。	季節や行事毎に利用者手作りの大きな作品が3フロア毎の壁に掲示され、その作品からは多くの話題が広がっている。全フロアと居室には床暖房が有り、冬場はヒートショックの心配も無く、足元からポカポカと穏やかに過ごし易い共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらもひとり一人の場所の確保はできていると思っています。気の合う方との空間も確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は自由に使ってもらっています。好みの物や馴染みの物を持ち込んでもらっています。	各居室には、木製の取付け家具・ベッド・洗面所・仕切カーテン付トイレが使い易く設置されている。飾り棚には思い出の写真や手作り作品等が置かれ、利用者個人と家族の思いや拘りを尊重された、居心地の良い部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は4階建になっていますが、フロアに入ってもらくと段差もなく障害物もなく安心安全です。		